

「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」結果[要約]

調査対象 : 全国の60歳以上の男女5,000人
有効回答数(率) : 3,293人(65.9%)

<ポイント>

1. 近所付き合いが希薄化する一方、趣味やスポーツ・地域行事などの自主的な活動に参加する人は増えている。

・近所付き合いの程度では、「親しくつきあっている」と回答した人は43.0%で、過去の調査と比較すると減少傾向。

平成20年調査	43.0%
平成15年調査	52.0%
昭和63年調査	64.4%

・「1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われた活動に参加したことがある」と回答した人の割合は59.2%で、過去の調査と比較すると増加傾向。

平成20年調査	59.2%
平成15年調査	54.8%
昭和63年調査	36.4%

2. 「健康状態が良い」、「友人がたくさんいる」、「自主的な活動に参加したことがある」人ほど「生きがい」を感じている

3. 地域活動に参加したい人やNPO活動に関心を持つ人は増えている

・今後地域活動に参加したいと考える人は54.1%と過去の調査と比較すると増加傾向にあり、初めて50%を超えた。

平成20年調査	54.1%
平成15年調査	47.7%
昭和63年調査	43.5%

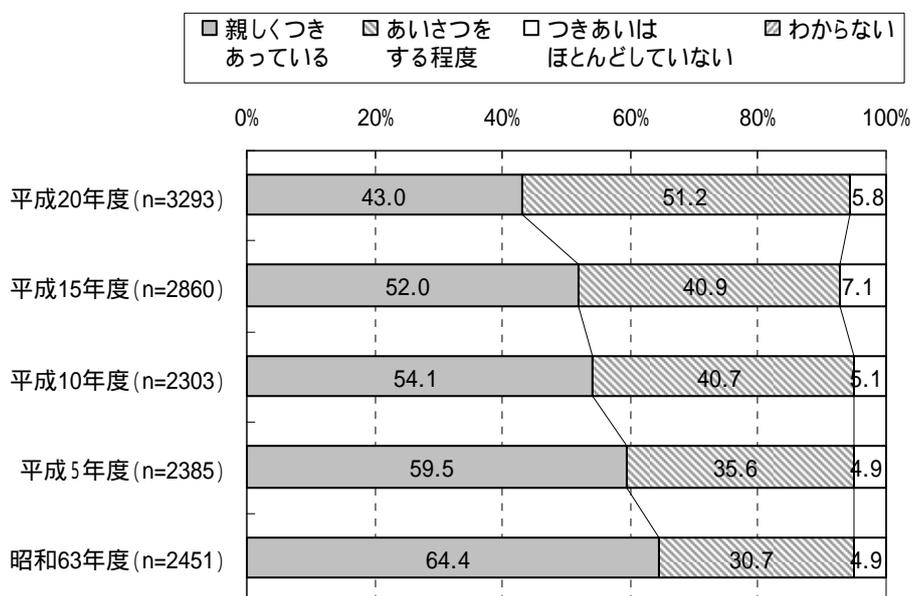
・NPO活動に関心がある人(「既に参加している」、「今後参加したい」、「関心があるがわからない」の合計)は56.1%であり、過去の調査と比較すると増加傾向。

平成20年調査	56.1%
平成15年調査	47.2%

ポイント1 近所付き合いが希薄化する一方、趣味やスポーツ・地域行事などの自主的な活動に参加する人は増えている。

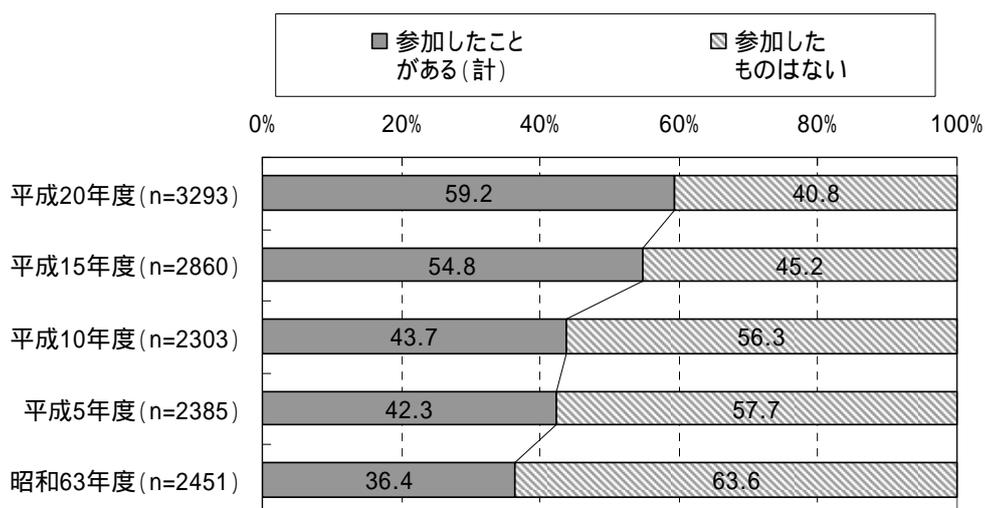
- 近所付き合いの程度では、「親しくつきあっている」と回答した人は43.0%で、過去の調査と比較すると減少傾向。

Q4 「あなたは、ふだん、近所の人とどの程度の付き合いをしていますか。」



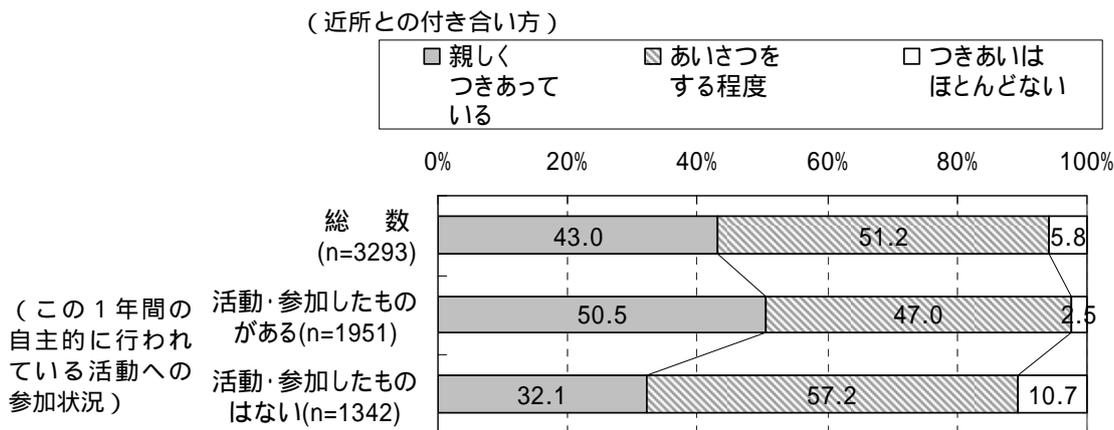
- 1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われた活動に参加したことがあると回答した人の割合は59.2%で、過去の調査と比較すると増加傾向。

Q19 「あなたは、この1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている活動(*)を行った、または参加したことがありますか。」



* 趣味、健康・スポーツ、生産・就業、教育関連・文化啓発活動、生活環境改善、安全管理、高齢者の支援、子育て支援、地域行事、その他の活動

- ・ 1年間に、自主的な活動に参加したことがない人のほうが、参加した人よりも近所関係が希薄化している傾向にある。

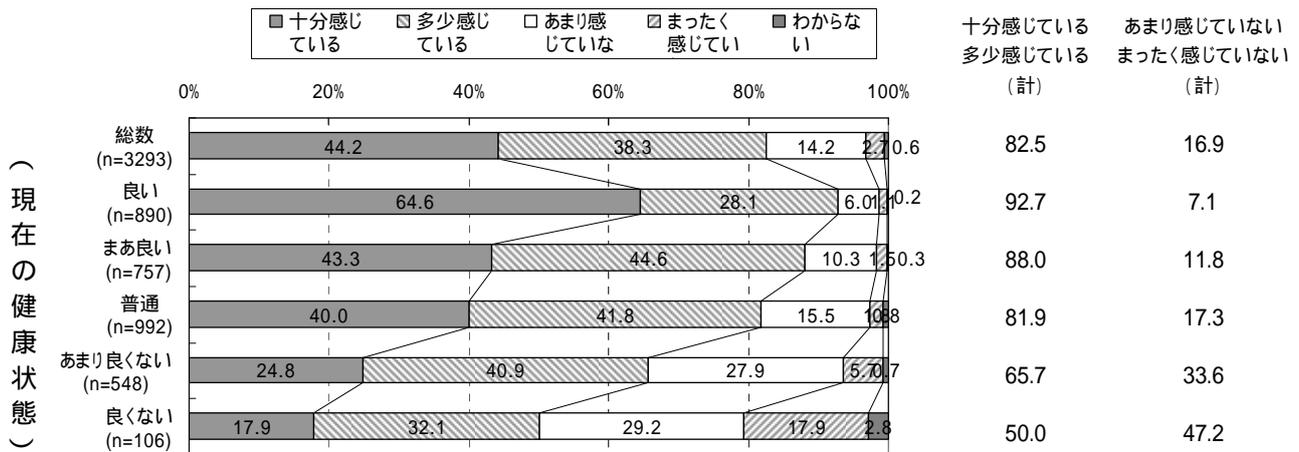


ポイント2 「健康状態が良い」、「友人がたくさんいる」、「自主的な活動に参加したことがある」人ほど「生きがい」を感じている

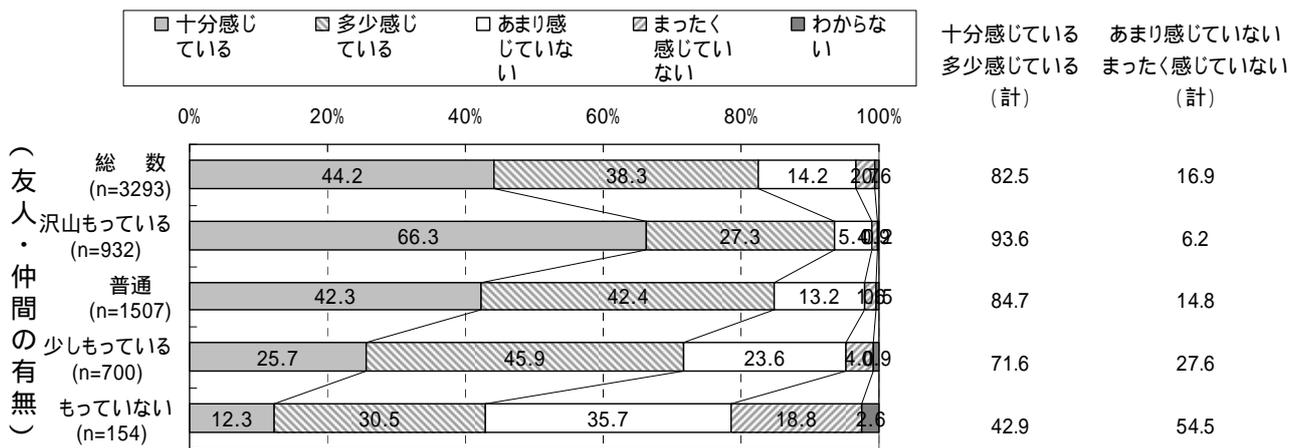
- ・ 全体では、「十分感じている、多少感じている」(以下「感じている」)人は82.5%、「あまり感じていない、まったく感じていない」人は16.9%であった。
- ・ 現在の健康状態が良好であるほど、生きがいを「感じている」人が多く、健康状態が「良い」と回答した人の92.7%が生きがいを「感じている」のに対し、現在の健康状態について、「良くない」と回答した人のうち、生きがいを「感じている」と回答した人は50.0%にとどまった。
- ・ 親しい友人・仲間を多く持っている人ほど、生きがいを「感じている」人が多い。「友人・仲間をたくさんもっている」と回答した人の93.6%が生きがいを「感じている」と回答したのに対し、親しい友人・仲間の有無について、「友人・仲間はもっていない」と回答した人のうち、生きがいを「感じている」と回答した人は42.9%にとどまった。
- ・ 「1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている活動を行った、または参加したことがある」と回答した人のうち、生きがいを「感じている」と回答した人は90.7%であったのに対し、「活動に行わなかった、参加しなかった」と回答した人のうち、生きがいを「感じている」と回答した人は70.6%にとどまった。
- ・ 近隣との付き合いが親密なほど、生きがいを「感じている」と回答した人が多く、「近隣と親しく付き合っている」と回答した人のうち、生きがいを「感じている」と回答した人は88.4%に対し、「近隣との付き合いがほとんどない」と回答した人で、生きがいを「感じている」と回答した人は57.1%にとどまった。

Q 8 「あなたは、現在、どの程度生きがい(喜びや楽しみ)を感じていますか。」

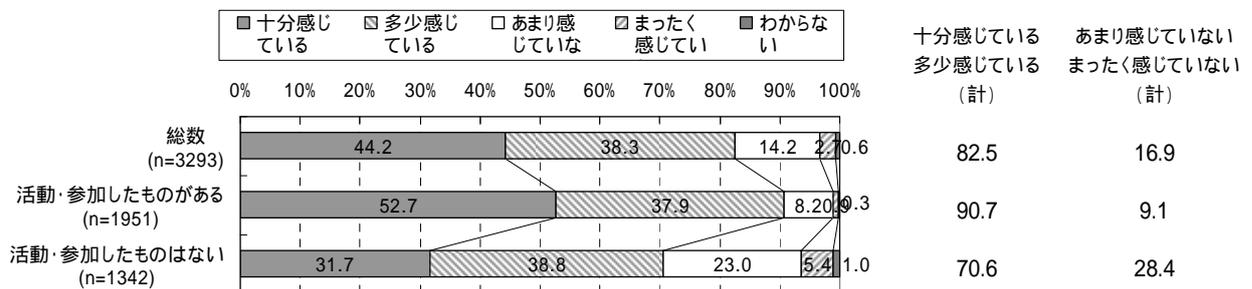
<健康状態別>



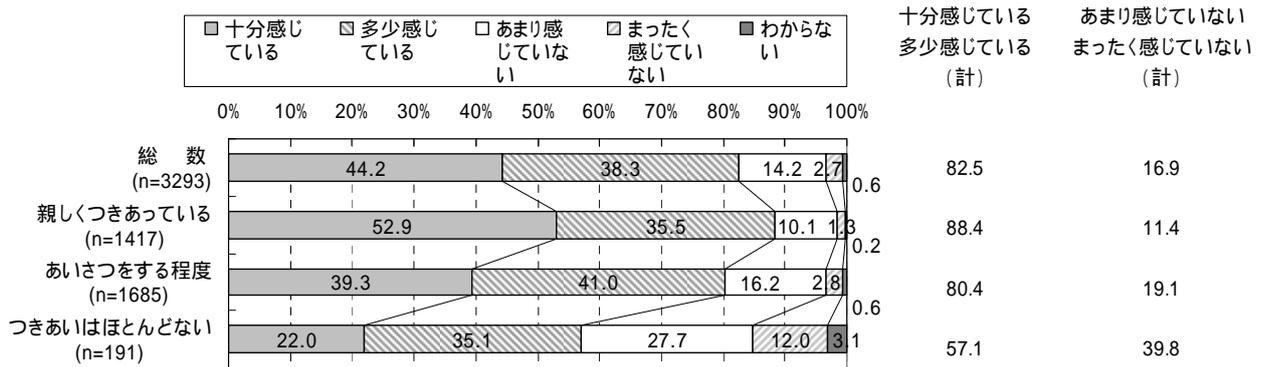
<友人の有無別>



<自主的な活動への参加の有無別>



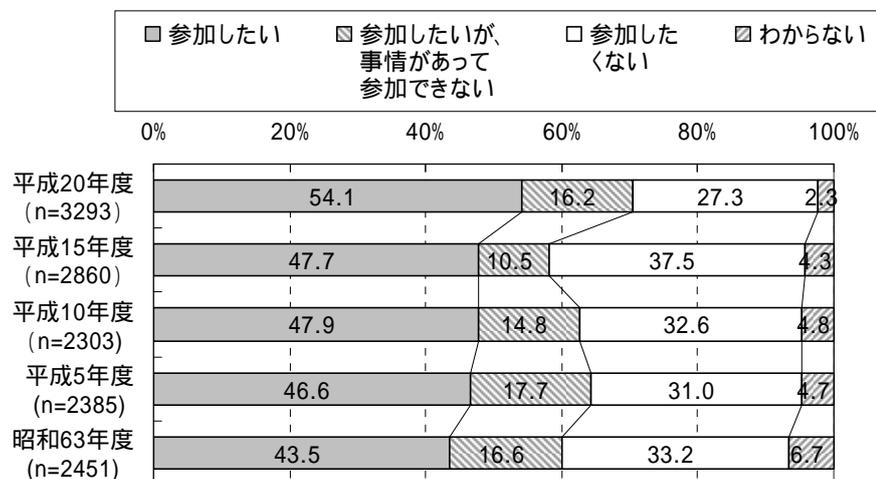
< 近隣との付き合い方別 >



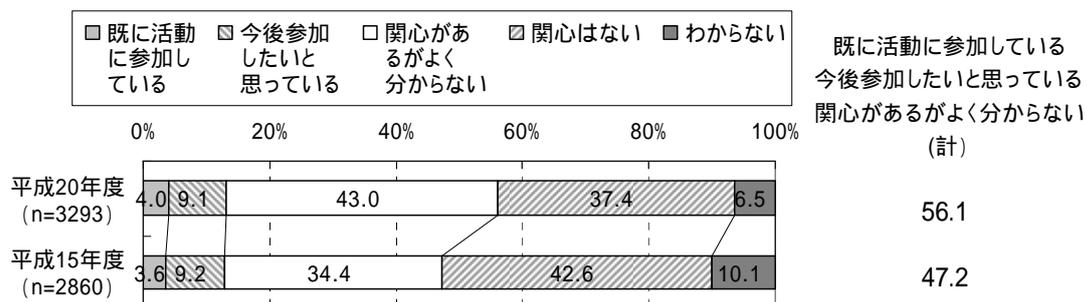
ポイント3 地域活動に参加したい人やNPO活動に関心を持つ人は増えている

- ・ 「今後地域活動に参加したい」と考える人は54.1%と過去の調査と比較すると増加傾向にあり、初めて50%を超えた。
- ・ NPO活動に関心がある人(「既に参加している」、「今後参加したい」、「関心があるがよくわからない」の合計)は56.1%で、過去の調査と比較すると約9ポイント増加した。
- ・ 性別でみると、男性が「既に参加している」「今後参加したいと思っている」のいずれについても女性を上回り、関心が高い。
- ・ 年齢層別にみると、年齢層が低いほど「今後参加したいと思っている」が高くなっている。
- ・ 近所付き合いの程度別・親しい友人・仲間の有無別にみると、近所付き合いの程度が強い層、また、友人・仲間を沢山もっている層では、地域活動やNPO活動への参加意向が強い。

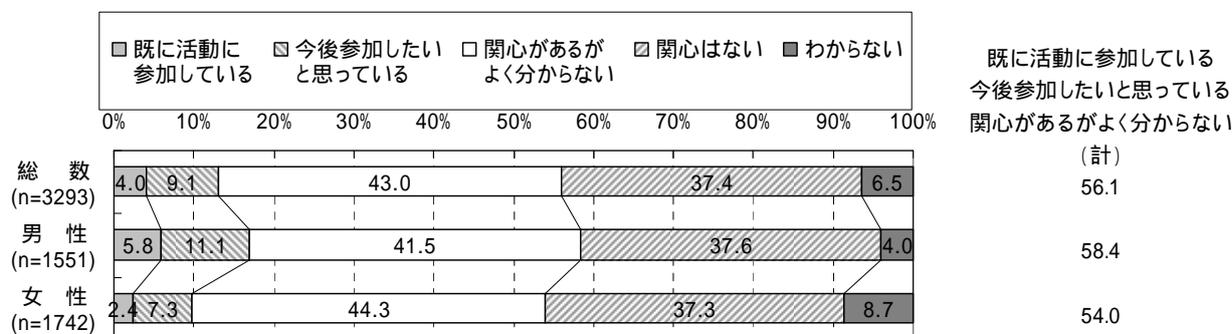
Q20 あなたは、グループや団体で自主的に行われている活動(地域活動)に、今後とも(又は今後は)、参加したいと思いますか。参加したくないと思いますか。



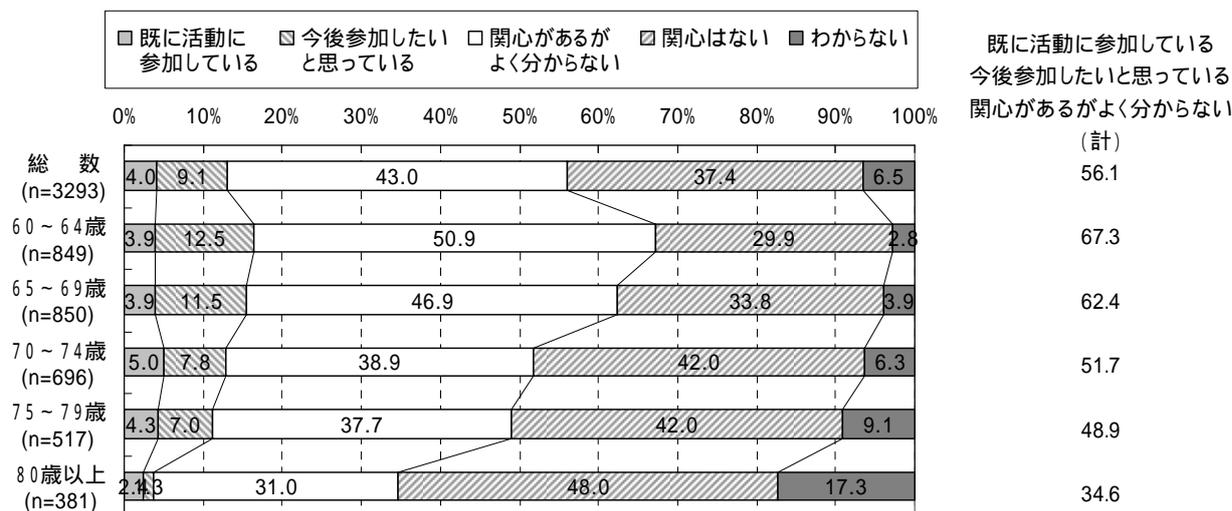
Q 2 3 地域の福祉や環境を改善することを目的としたNPO（民間非営利活動団体）が活動しています。あなたはNPO活動にご関心がありますか。



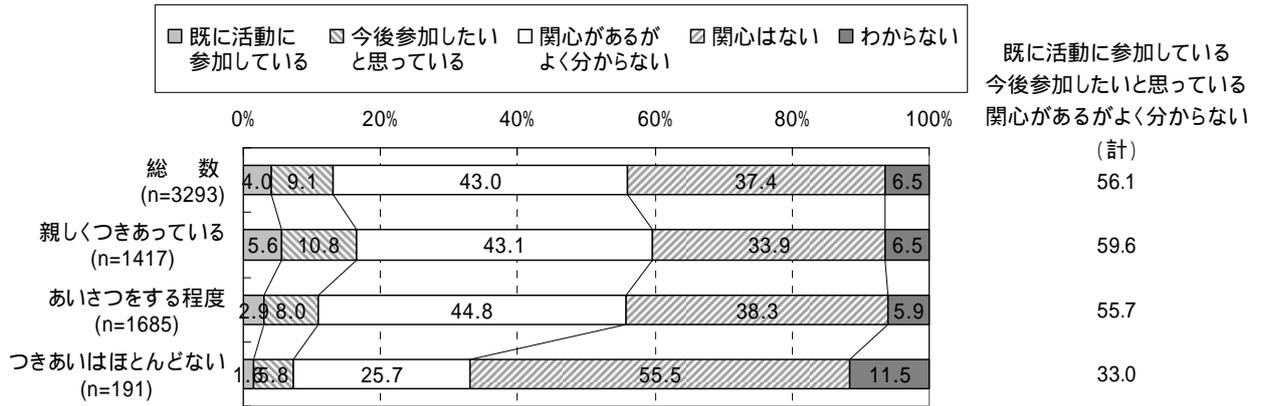
< 性別 >



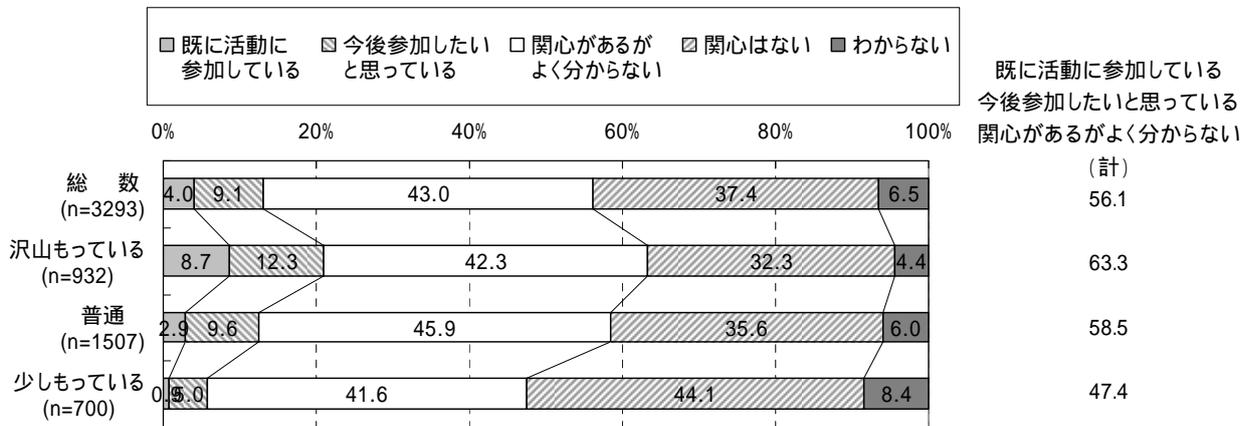
< 年齢別 >



< 近隣との付き合い方別 >



< 友人の有無別 >



「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」結果の概要

調査の目的

本調査は、地域社会への参加に関する高齢者の意識を把握するとともに、既に行われている4回の調査（昭和63年度、平成5年度、平成10年度、平成15年度）などとの時系列分析を行い、今後の高齢社会対策の推進に資することを目的として実施した。

調査項目

- 1．健康状態・日常生活に関する事項
- 2．地域社会に参加するための環境に関する事項
- 3．社会参加活動についての実態と意識に関する事項
- 4．地域活動についての方考え方に関する事項
- 5．世代間交流についての実態と意識に関する事項

調査対象

- (1) 母集団
全国の60歳以上の男女
- (2) 標本数
5,000人
- (3) 抽出方法
層化二段無作為抽出法

調査時期

平成21年2月12日～3月12日

調査方法

調査員による面接聴取法

調査実施機関

社団法人 新情報センター

回収結果

(1) 有効回収数 (率)

3,293 人 (65.9%)

(2) 調査不能数 (率)

1,707 人 (34.1%)

(不能内訳)

転居	106	長期不在	154
一時不在	396	住所不明	47
拒否	771	その他	233

調査対象者の基本属性 (性別・年齢別構成)

	性 別			年 齢 別					
	総 数	男 性	女 性	60 } } 64 歳	65 } } 69 歳	70 } } 74 歳	75 } } 79 歳	80 歳 以 上	(うち 85 歳 以 上)
総 数 (人)	3,293	1,551	1,742	849	850	696	517	381	119
構 成 比 (%)	100.0	47.1	52.9	25.8	25.8	21.1	15.7	11.6	3.6

過去の調査について

本報告書で結果を引用した過去の調査は次のとおりである。

(調 査 名)	(母集団)	(標本数)	(有効回収数)
平成 15 年度調査 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査	60 歳以上の男女	4,000	2,860
平成 10 年度調査 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査	60 歳以上の男女	3,000	2,303
平成 5 年度調査 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査	60 歳以上の男女	3,000	2,385
昭和 63 年度調査 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査	60 歳以上の男女	3,000	2,451
.....			
平成 19 年度調査 高齢者の健康に関する意識調査	55 歳以上の男女	5,000	3,157

(注 : グラフの「 * 」は、調査時に選択肢がないなどで、データが存在しないもの。)

調査結果の概要〈主なポイント〉

1. 健康状態・日常生活に関する事項

「健康状態が良い」、「友人がたくさんいる」、「自主的な活動に参加したことがある」人ほど「生きがい」を感じている。男女ともに、年齢が高くなると「生きがい」を感じていない人が増加する傾向。(報告書P.8)

近所付き合いの程度では、「親しくつきあっている」と回答した人は43.0%で、過去の調査と比較すると減少傾向。どの年代も男性より女性の方が近所と「親しくつきあっている」人が多く、三世帯世帯や居住年数が長い世帯ほど、近所と「親しくつきあっている」世帯が多い。(報告書P.14)

「生きがいを感じる時」について、健康状態が「良い」・「まあ良い」と回答した人は「趣味やスポーツに熱中」(51.8%)、「孫や家族との団欒」(47.6%)、「友人や知人との食事・雑談」(46.7%)、「旅行」(42.9%)と回答した人が多く、健康状態が「良くない」・「あまり良くない」と回答した人は、「テレビやラジオ」(48.9%)、「孫や家族との団欒」(45.8%)と回答した人が多い。(報告書P.22)

「心配ごとや悩みごと」があると回答とした人が、1年前の調査と比較して増えており、「自分の健康」、「配偶者の健康」、「配偶者に先立たれた後の生活」、「一人暮らしや孤独になること」と回答する人が増えた。(報告書P.39)

「社会保障給付」と「税負担」との関係について、「給付水準を維持し、必要な増税や負担増を行うべき」と回答する人が25.6%と最も多く、「水準を引き上げ、それに必要な増税や負担増を行うべき」と回答した人とあわせると、37.9%が「必要な増税や負担増を行うべき」と考えており、1年前の調査と比較しても回答する比率が高まっている。収入が多い人ほど、水準を維持又は水準を引き上げ「必要な増税を行うべき」と回答する人が増加する傾向。収入が少ない人ほど、「わからない」と回答する人が増加。(報告書P.48)

2. 地域社会に参加するための環境に関する事項

「仕事や家事以外での過ごし方」について、「テレビ、ラジオ」と回答した人の割合は平成15年調査では84.3%だったが、平成20年調査では75.5%と減少している一方で、「軽い運動やスポーツ」、「日帰りの行楽」、「地域や社会のための活動」等の屋外での活動が増加。(報告書P.52)

「家族や友人知人への連絡、情報収集等に使う機器」では、携帯電話・PHS等のいずれの機器についても、性別では女性よりも男性、年齢では若い人ほど、利用している人が多い。また、「親しい友人・仲間の有無」別に見ると、友人・仲間をたくさんもっている人ほど、情報機器を利用している。(報告書P.57)

3. 社会参加活動についての実態と意識に関する事項

「1年間に自主的に行われている活動を行った、又は参加したことがある」人は約6割であり、過去の調査と比較すると増加傾向。「健康・スポーツ」が最も多く30.5%、続いて「地域行事」が24.4%であり、過去の調査と比較するといずれも増加している。また、「活動の形態」については、「主にグループ団体活動に参加」している人が半数を超え、「主に個人または友人と一緒に活動」している人を上回った。(報告書P.59)

「最も力を入れた活動」について、過去の調査と比較すると「健康・スポーツ」や「地域行事」と回答した人が増加しており、「趣味」と回答した人が減少した。(報告書P.64)

「最も力を入れている活動に参加したきっかけ」について、「友人、仲間のすすめ」が39.3%と最も多いが、過去の調査と比較すると減少傾向にある。続いて、「個人の意思」が33.3%、「自治会、町内会の誘い」が27.6%であり、いずれも過去の調査と比較すると増加傾向であった。(報告書P.71)

「活動に参加しなかった理由」について、「健康・体力に自信がないから」が最も多く36.4%で、過去の調査と比較すると増加傾向。また、「同好の友人・仲間がいなから」も11.2%で、過去の調査から増加傾向にある。(報告書P.75)

今後地域活動に参加したいと考える人は54.1%と過去の調査と比較すると増加傾向にあり、初めて50%を超えた。(報告書P.77)

「参加したいと思う理由」について、「生活に充実感をもちたいから」が39.6%で最も高く、以下、「お互いに助け合うことが大切だから」が35.2%、「健康や体力に自信をつけたいから」が34.9%、「地域社会に貢献したいから」が32.0%であった。これらに結果を、「参加して良かったと思うこと」(Q19 SQ6)と比較すると、「参加したいと思う理由」以上に実際には「新しい友人を得ることができた」「生活に充実感をもつことができた」を評価する傾向が強い。(報告書P.82)

「特に力を入れて参加している団体」について過去の調査と比較すると、「町内会・自治会」、「健康・スポーツのサークル・団体」への参加は増えている一方、「老人クラブ」は大幅に減少している。(報告書P.87)

NPO活動に関心がある人(「既に参加している」、「今後参加したい」、「関心があるがわからない」の合計)は56.1%であり、過去の調査と比較すると増加傾向。(報告書P.93)

4. 地域活動についての考え方に関する事項

地域のための活動の報酬に対する考え方について、「地域活動だから、謝礼や報酬などは受け取るべきではない」と回答した人の割合は、平成15年調査では31.1%だったが、平成20年調査では46.3%と増加している。(報告書P.100)

5 . 世代間交流についての実態と意識に関する事項

世代間交流の機会の有無について、前回調査の平成15年までは減少傾向であったが、今回の調査では増加し、5割以上が交流機会を持っている。(報告書P.105)

若い世代との交流の機会については、その参加意向が60%を超えた。(報告書P.109)

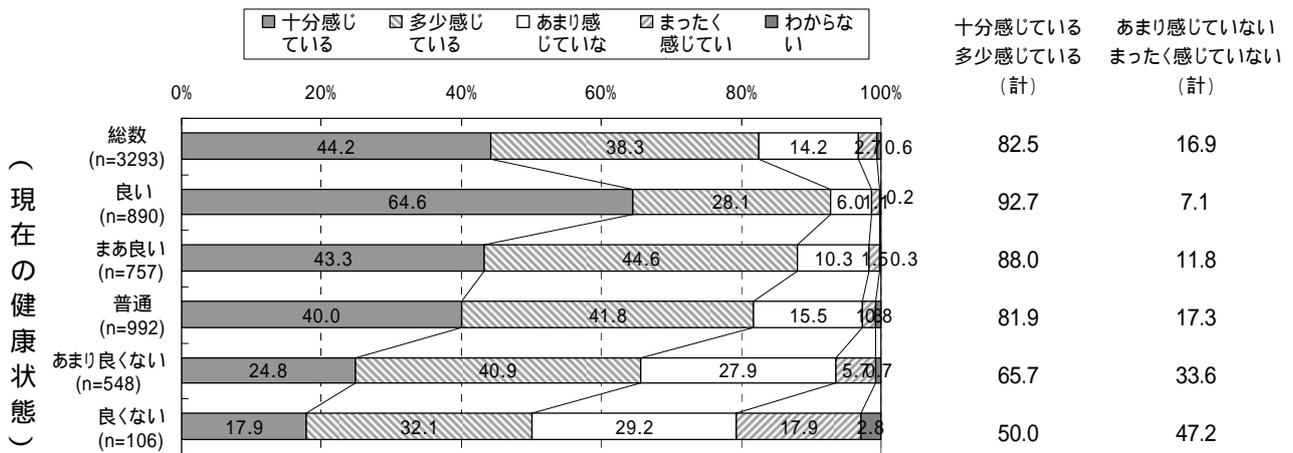
調査結果

1. 健康状態・日常生活に関する事項

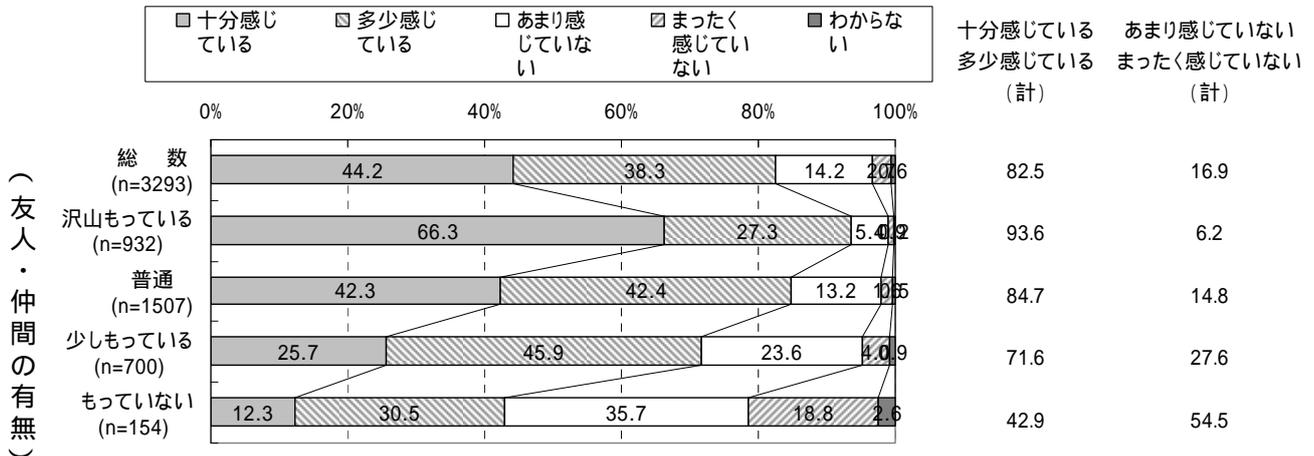
- ・「健康状態が良い」、「友人がたくさんいる」、「自主的な活動に参加したことがある」人ほど「生きがい」を感じている。
- ・男女ともに、年齢が高くなると「生きがい」を感じていない人が増加する傾向。

Q 8 「あなたは、現在、どの程度生きがい（喜びや楽しみ）を感じていますか。」

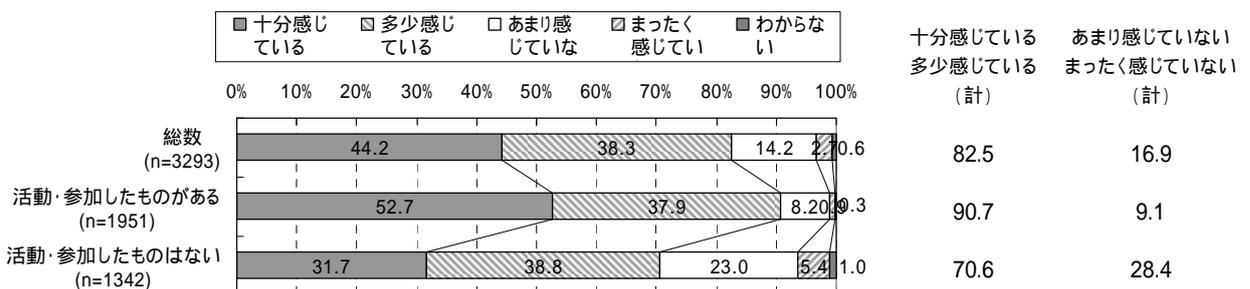
< 健康状態別 >



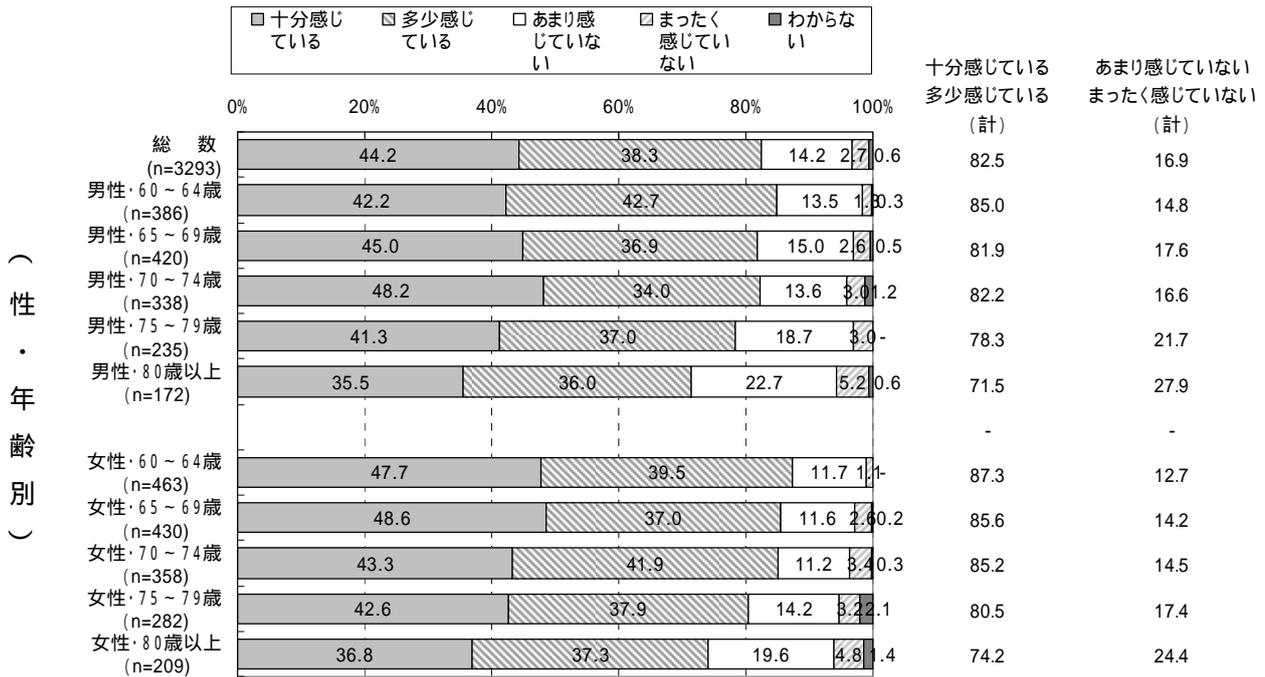
< 友人の有無別 >



< 自主的な活動への参加の有無別 >

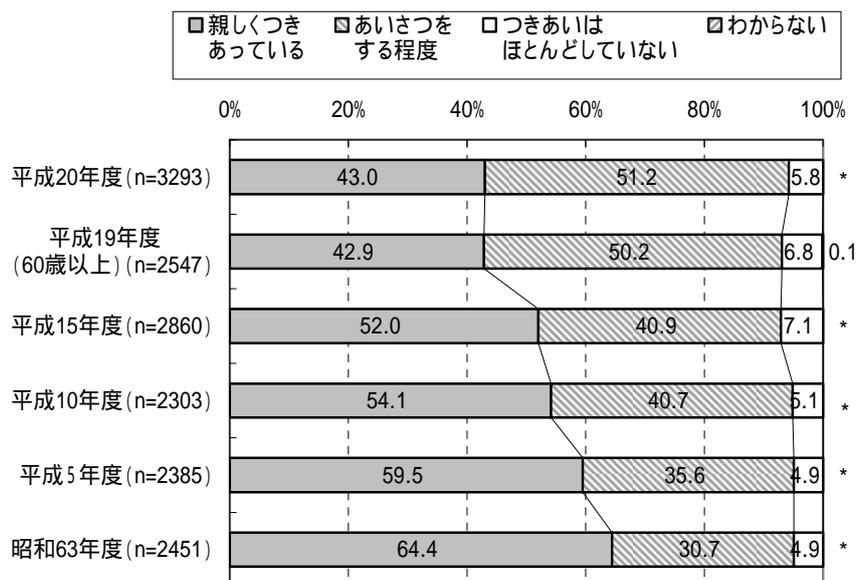


< 性・年齢別 >

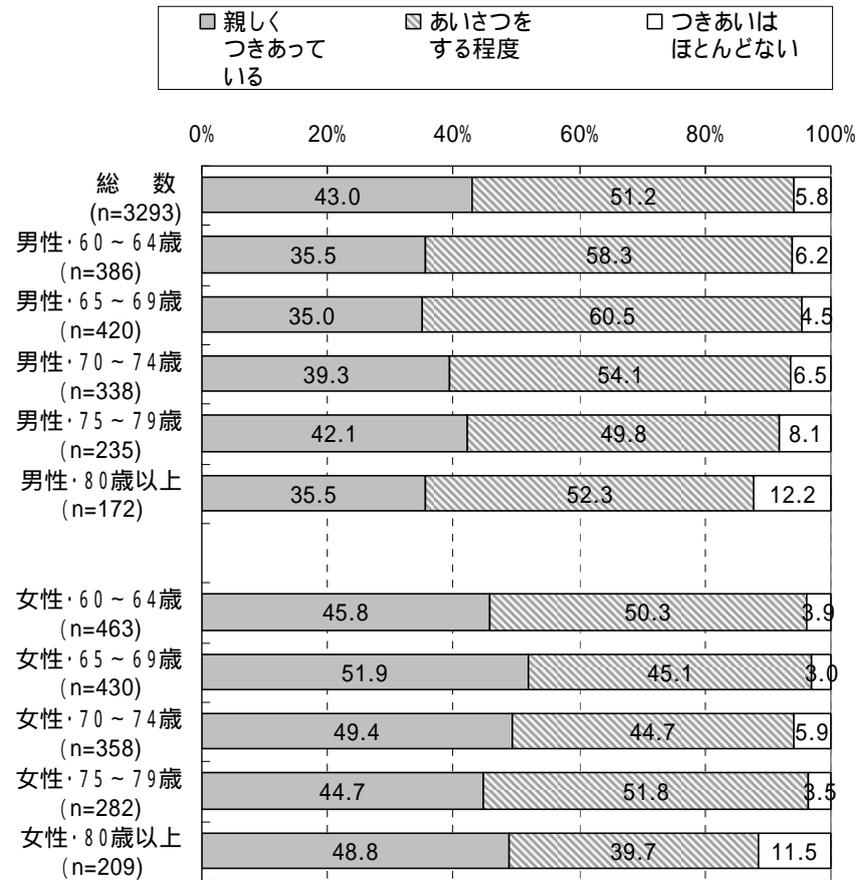


- ・近所付き合いの程度では、「親しくつきあっている」と回答した人は、43.0%で、過去の調査と比較すると減少傾向。
- ・どの年代も男性より女性の方が近所と「親しくつきあっている」人が多く、三世帯世帯や居住年数が長い世帯ほど、近所と「親しくつきあっている」世帯が多い。

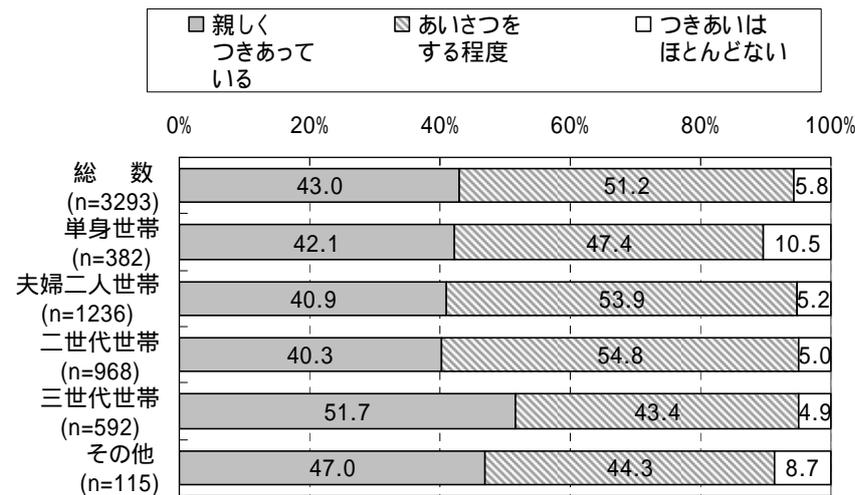
Q4 「あなたは、ふだん、近所の人とどの程度の付き合いをしていますか。」



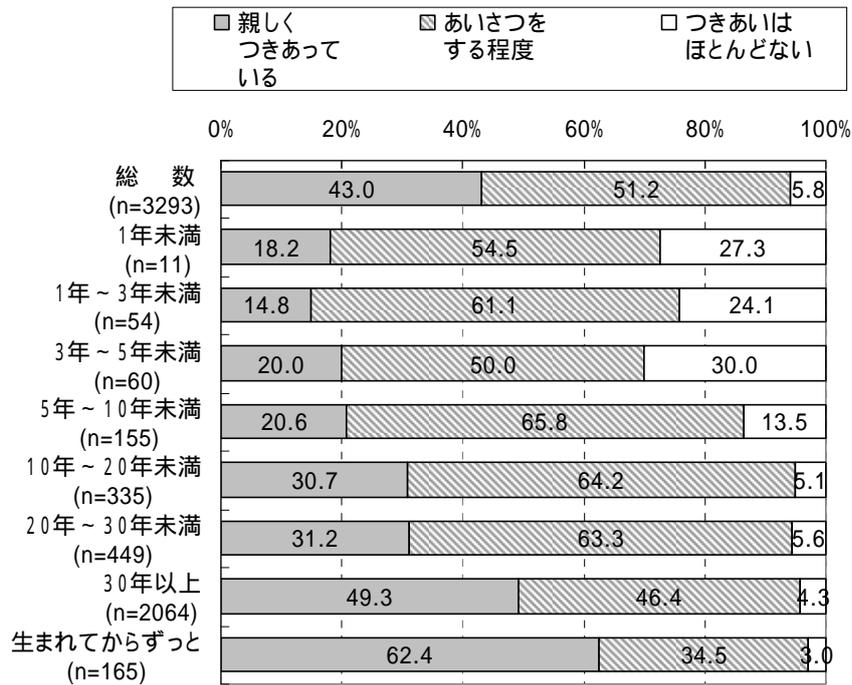
< 性・年齢別 >



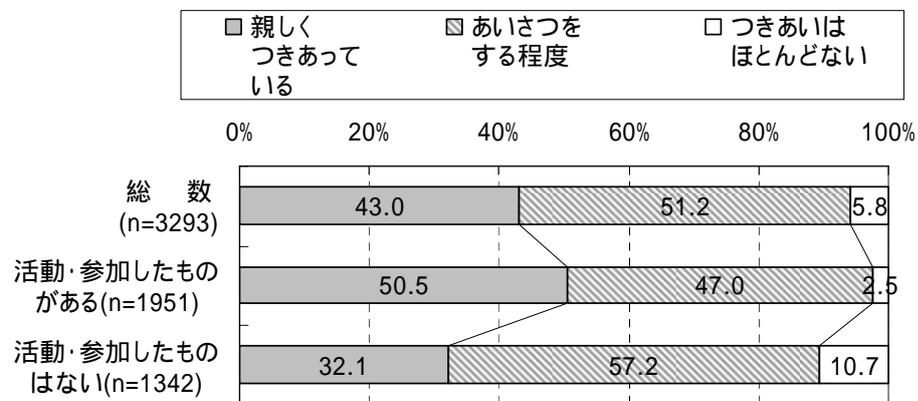
< 同居形態別 >



< 居住年数別 >



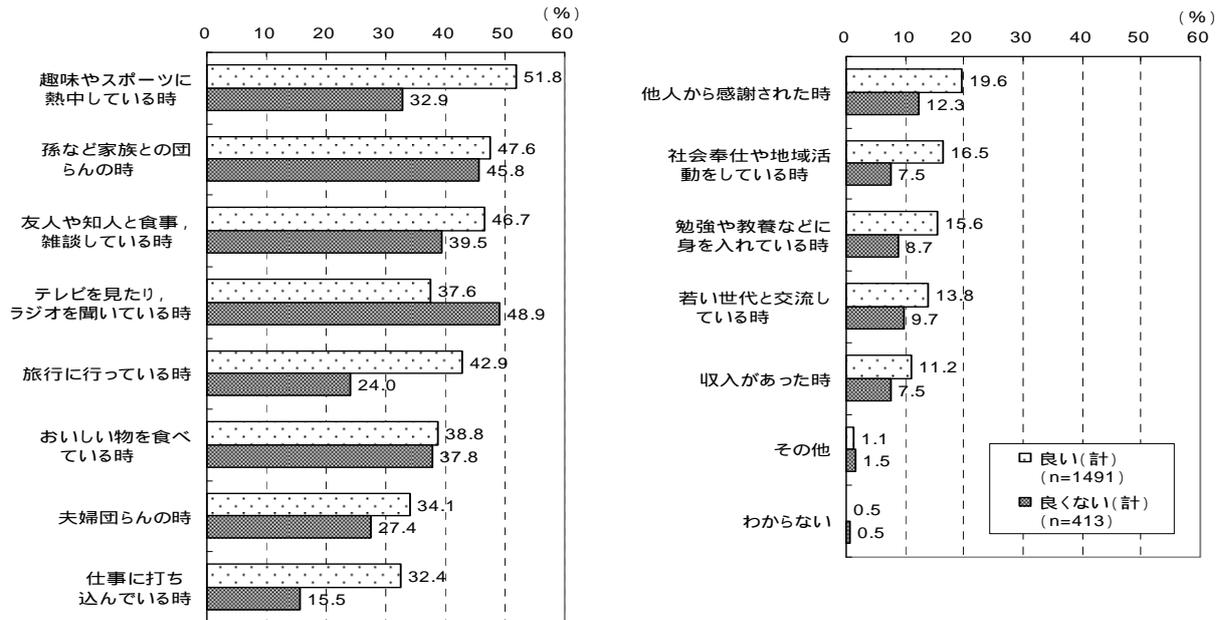
< 自主的な活動への参加の有無別 >



・「生きがいを感じる時」について、健康状態「良い」・「まあ良い」と回答した人は「趣味やスポーツに熱中」(51.8%)、「孫や家族との団らん」(47.6%)、「友人や知人との食事・雑談」(46.7%)、「旅行」(42.9%)と回答した人が多く、健康状態が「良くない」・「あまり良くない」と回答した人は、「テレビやラジオ」(48.9%)、「孫や家族との団らん」(45.8%)と回答した人が多い。

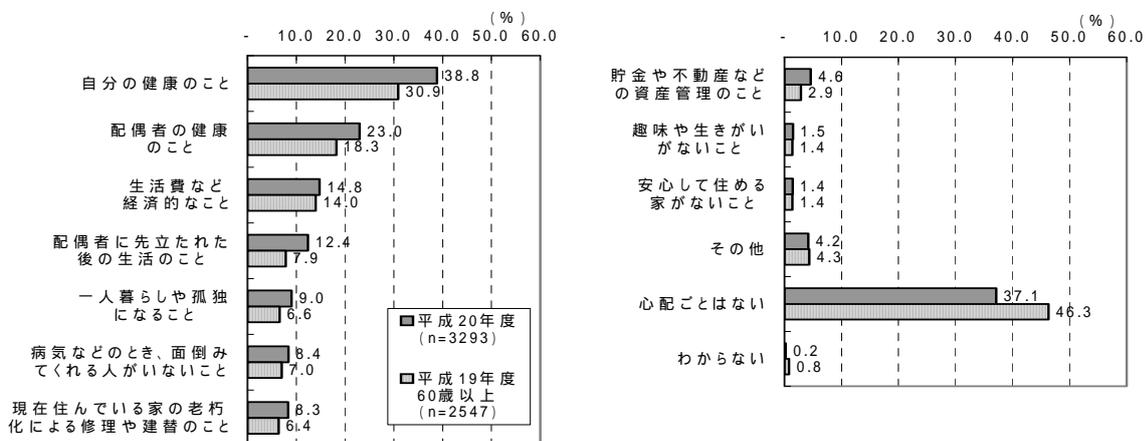
Q 8 「あなたが生きがい(喜びや楽しみ)を感じるのはどのような時ですか。この中からいくつでもあげてください。」(複数回答)

< 健康状態別 >



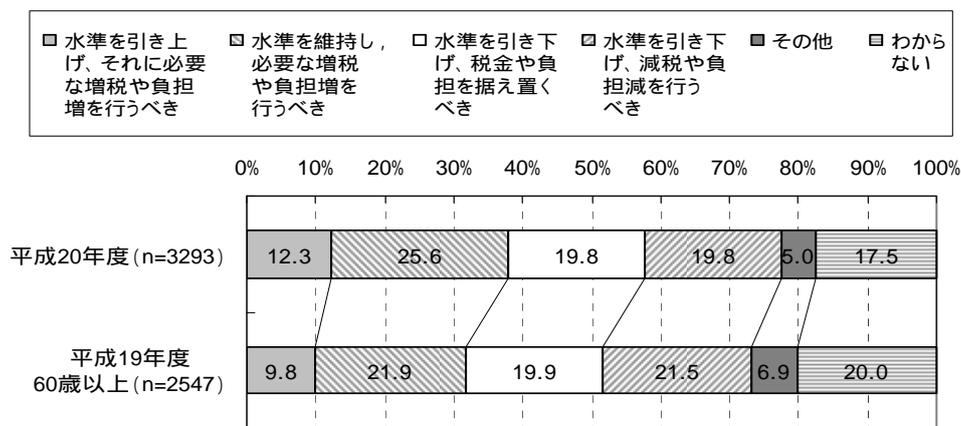
・「心配ごとや悩みごと」があると回答した人が、1年前の調査と比較して増えており、「自分の健康」、「配偶者の健康」、「配偶者に先立たれた後の生活」、「一人暮らしや孤独になること」と回答する人が増えた。

Q 10 「あなたは、現在、心配ごとや悩みごとがありますか。この中からいくつでもあげてください。」(複数回答)

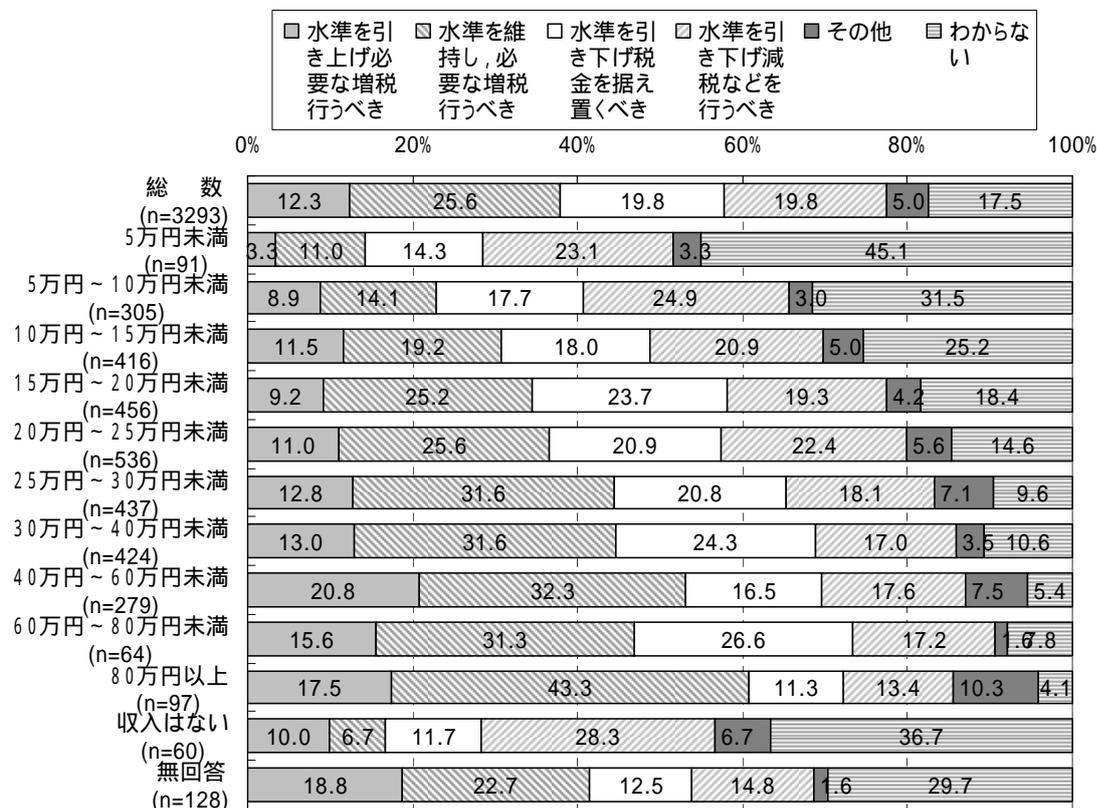


- ・「社会保障給付」と「税負担」との関係について、「給付水準を維持し、必要な増税や負担増を行うべき」と回答する人が25.6%と最も多く、「水準を引き上げ、それに必要な増税や負担増を行うべき」と回答した人とあわせると、37.9%が「必要な増税や負担増を行うべき」と考えており、1年前の調査と比較しても回答する比率が高まっている。
- ・収入が多い人ほど、水準を維持又は水準を引き上げ「必要な増税を行うべき」と回答する人が増加する傾向。収入が少ない人ほど、「わからない」と回答する人が増加。

Q14 「今後の社会保障給付の水準と、税金や社会保険料の負担との関係について、あなたの考えに一番近いのはどれですか。この中から1つだけお答えください。」



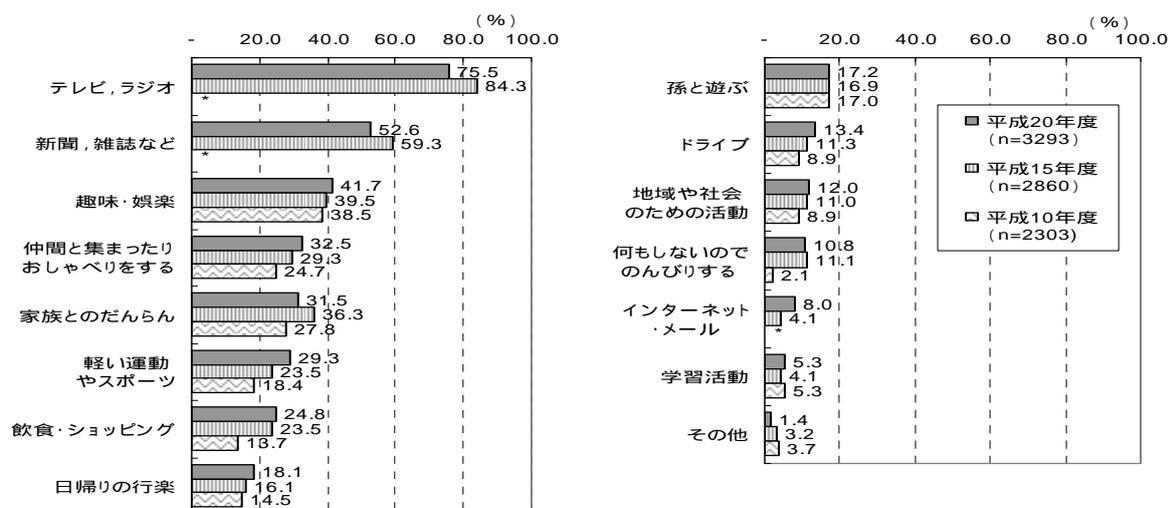
< 収入別 >



2. 地域社会に参加するための環境に関する事項

- ・「仕事や家事以外での過ごし方」について、「テレビ、ラジオ」と回答した人の割合は平成15年調査では84.3%だったが、平成20年調査では75.5%と減少している一方で、「軽い運動やスポーツ」、「日帰りの行楽」、「地域や社会のための活動」等の屋外での活動が増加。

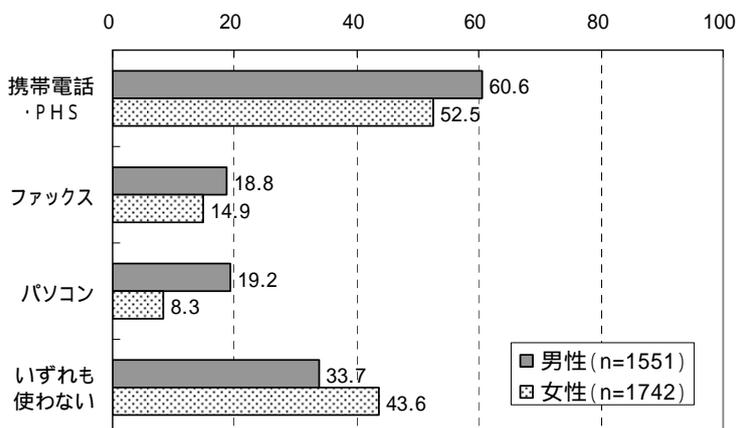
Q16 「あなたは、ふだんの日に仕事や家事以外では、主にどのようなことをして過ごすことが多いですか。この中からいくつでもあげてください。」（複数回答）



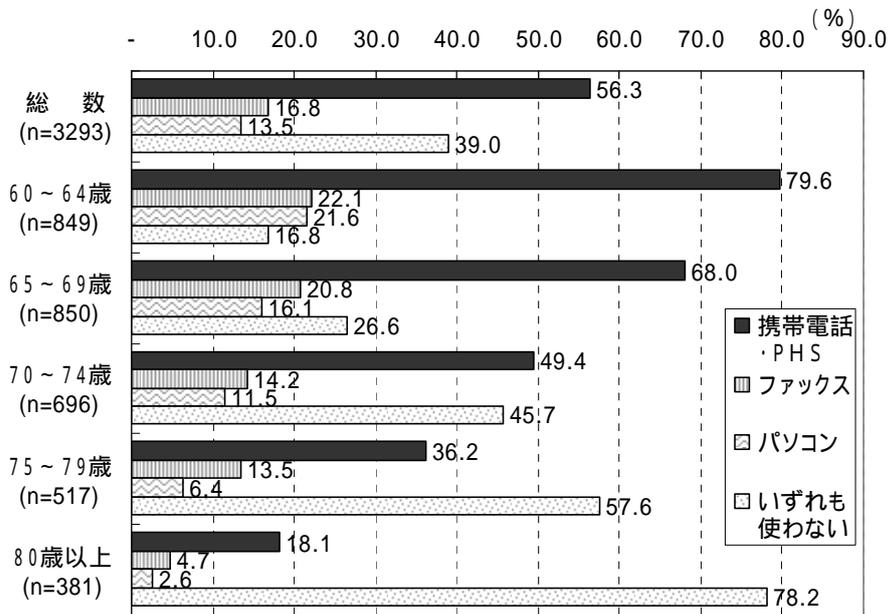
- ・「家族や友人知人への連絡、情報収集等に使う機器」では、携帯電話・PHS等のいずれの機器についても、性別では女性よりも男性、年齢では若い人ほど、利用している人が多い。また、「親しい友人・仲間の有無」別に見ると、友人・仲間をたくさんもっている人ほど、情報機器を利用している。

Q18 「あなたは、家族や友人知人への連絡、情報収集等に下記のような機器を使うことがありますか。あなたにあてはまるものをすべてあげてください。」（複数回答）

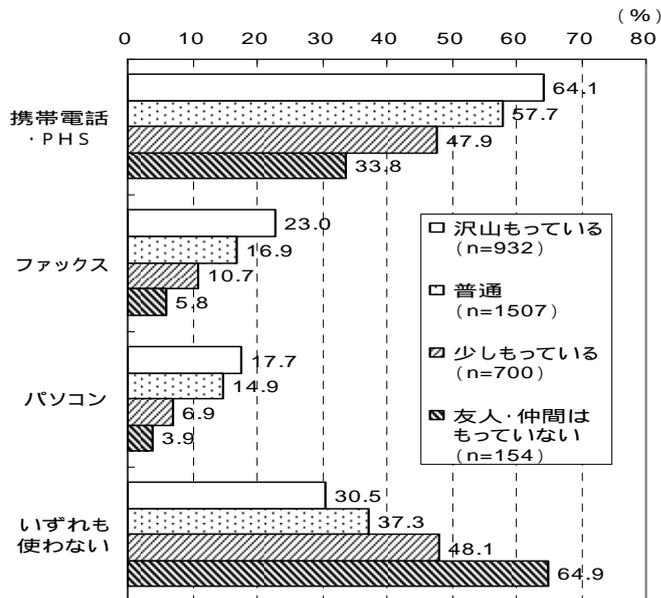
<男女別>



< 年齢別 >



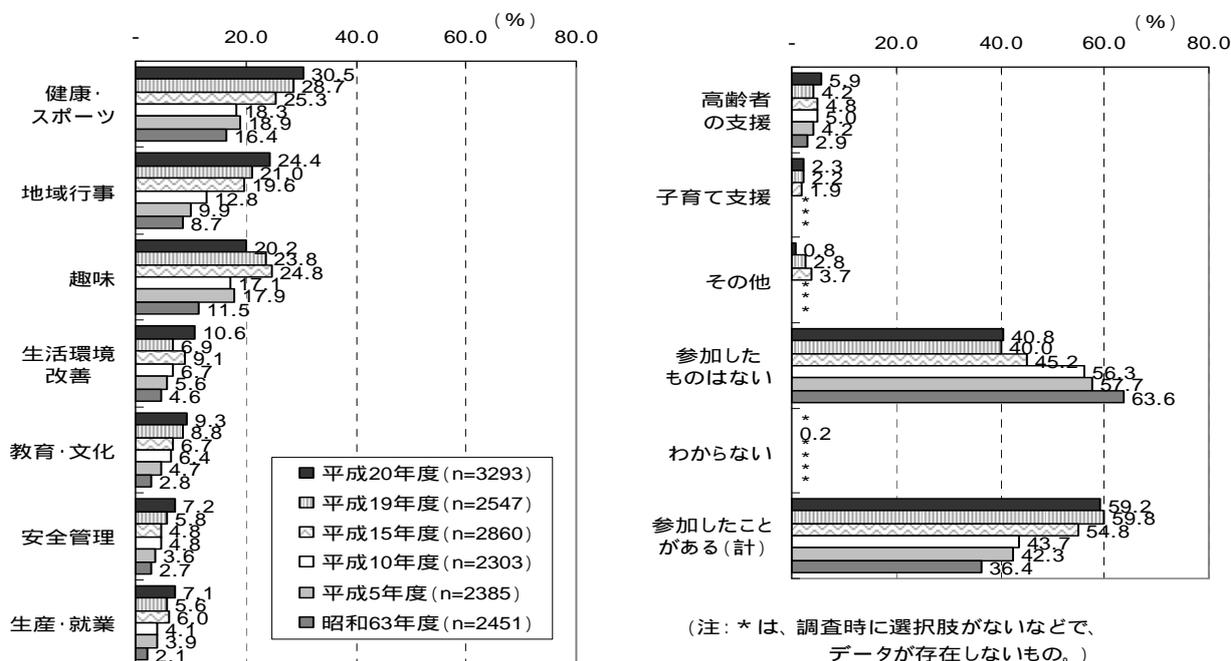
< 親しい友人・仲間の有無別 >



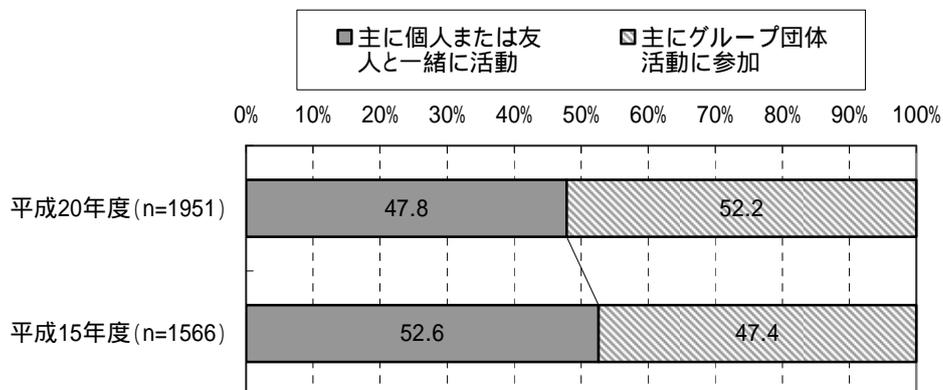
3. 社会参加活動についての実態と意識に関する事項

・「1年間に自主的に行われている活動を行った、又は参加したことがある」人は約6割であり、過去の調査と比較すると増加傾向。「健康・スポーツ」が最も多く30.5%、続いて「地域行事」が24.4%であり、過去の調査と比較するといずれも増加している。また、「活動の形態」については、「主にグループ団体活動に参加」している人が半数を超え、「主に個人または友人と一緒に活動」している人を上回った。

Q19 「あなたは、この1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている次のような活動を行った、または参加したことがありますか。この中からいくつでもお答えください。」（複数回答）

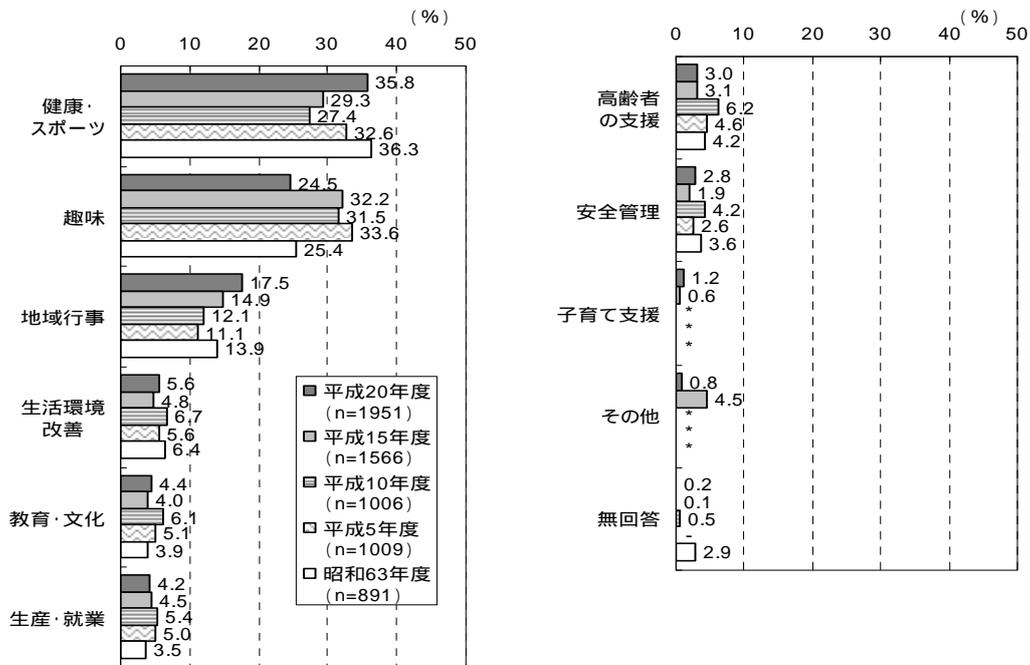


Q19-SQ1 「あなたはその活動を、主に個人または友人と行っていますか、それとも、グループや団体の活動に参加して行っていますか。」



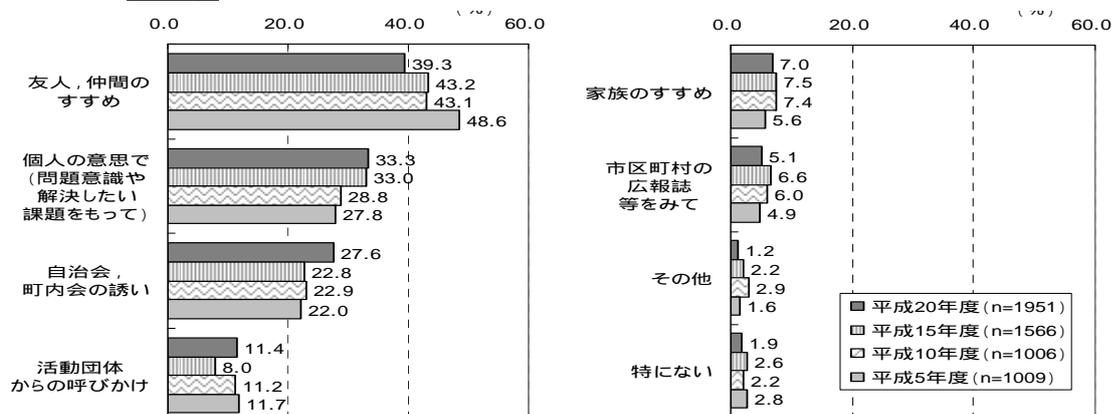
・「最も力を入れた活動」について、過去の調査と比較すると「健康・スポーツ」や「地域行事」と回答した人が増加しており、「趣味」と回答した人が減少した。

Q19 - SQ2 「そのうち、あなたが、最も力を入れて参加した活動はどれですか。この中から1つだけお答えください。」



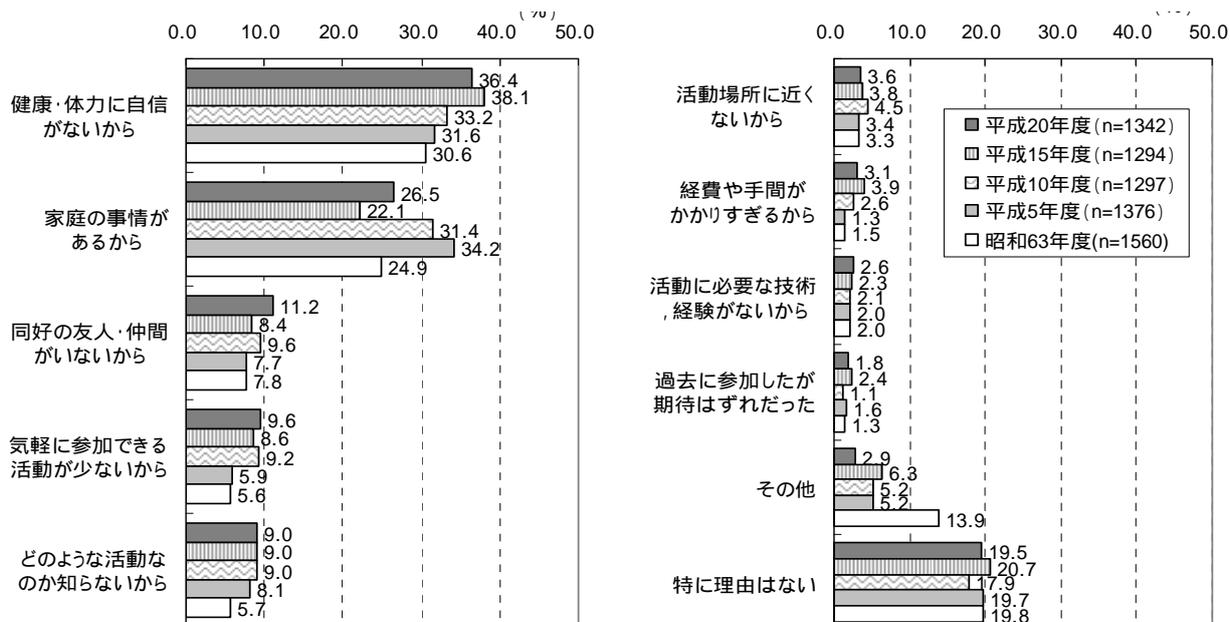
・「最も力を入れている活動に参加したきっかけ」について、「友人、仲間のすすめ」が39.3%と最も多いが、過去の調査と比較すると減少傾向にある。続いて、「個人の意志（問題意識や解決したい課題をもって）」が33.3%、「自治会、町内会の誘い」が27.6%であり、いずれも過去の調査と比較すると増加した。

Q19 - SQ5 「現在最も力を入れている活動を始めたきっかけはどのようなことだったのでしょうか。この中であてはまるものをいくつでもお答えください。」（複数回答）



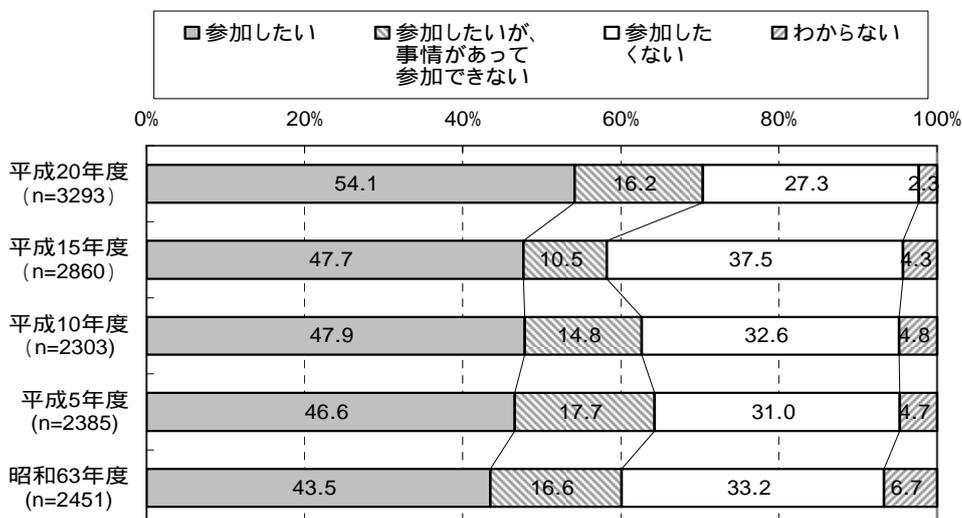
・「活動に参加しなかった理由」について、「健康・体力に自信がないから」が最も多く 36.4%で、過去の調査と比較すると増加傾向。また、「同好の友人・仲間がないから」も 11.2%で、過去の調査から増加傾向にある。

Q19 - SQ7 「この1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体に自主的に行われているような活動に参加しなかったのはどうしてですか。この中からいくつでも選んでください。」（複数回答）



・今後地域活動に参加したいと考える人は 54.1%と過去の調査と比較すると増加傾向にあり、初めて 50%を超えた。

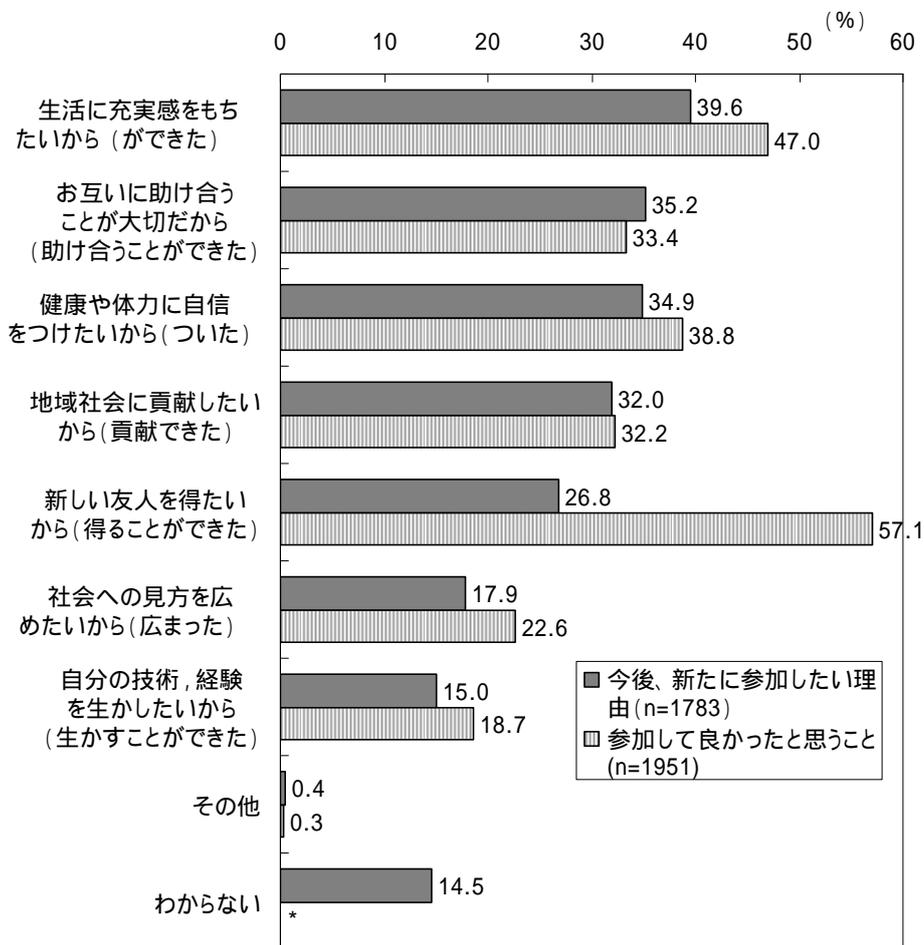
Q20 「あなたは、グループや団体に自主的に行われている活動（地域活動）に、今後とも（又は今後は）、参加したいと思いますか。参加したくないと思いますか。」



・「今後、活動に参加したいと思う理由」について、「生活に充実感をもちたいから」が 39.6%で最も高く、「お互いに助け合うことが大切だから」が 35.2%、「健康や体力に自信をつけたいから」が 34.9%、「地域社会に貢献したいから」が 32.0%、「新しい友人を得たいから」が 26.8 であった。この結果と「活動に参加して良かった理由」と比較したところ、「新しい友人を得ることができた」が 57.1%、「生活に充実感が持てた」が 47.0%と、実際に活動した人の評価が高い。

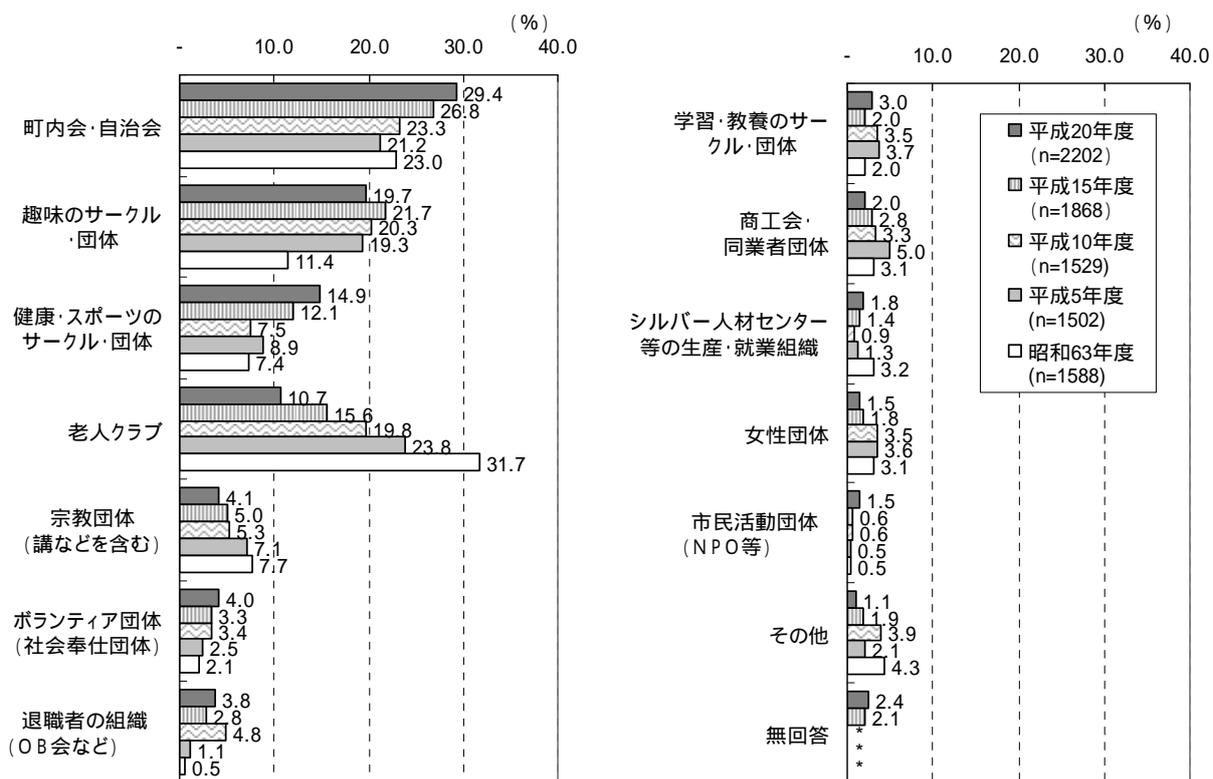
Q19 - SQ6 「あなた自身にとって、そのような活動全体を通じて、参加して良かったと思うのはどのようなことですか。この中からいくつでも選んでください。」
(複数回答)

Q20 - SQ2 「参加したいと思われる理由を、この中からいくつでもあげてください。」
(複数回答)



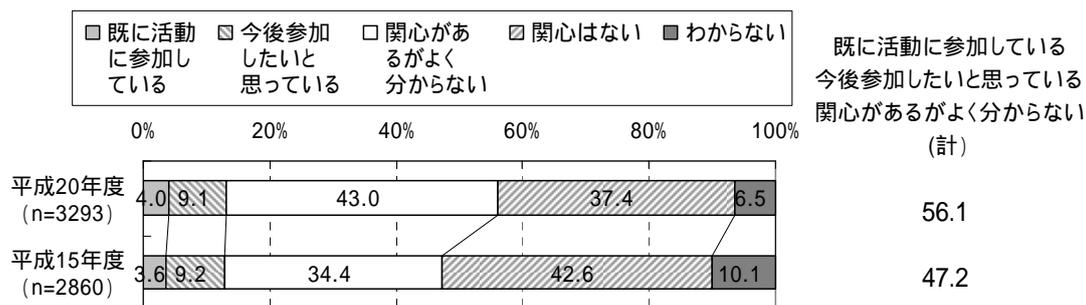
・「特に力を入れて参加している団体」について過去の調査と比較すると、「町内会・自治会」、「健康・スポーツのサークル・団体」への参加は増えている一方、「老人クラブ」は大幅に減少している。

Q 2 1 - S Q 「その中で、あなたが特に力を入れて参加している団体を1つだけあげてください。」

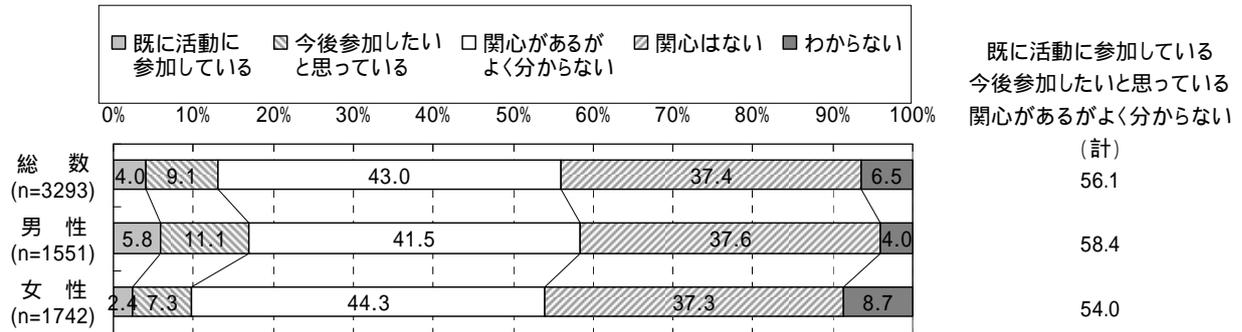


・NPO活動に関心がある人(「既に参加している」、「今後参加したい」、「関心があるがよくわからない」の合計)は56.1%であり、過去の調査と比較すると増加傾向。

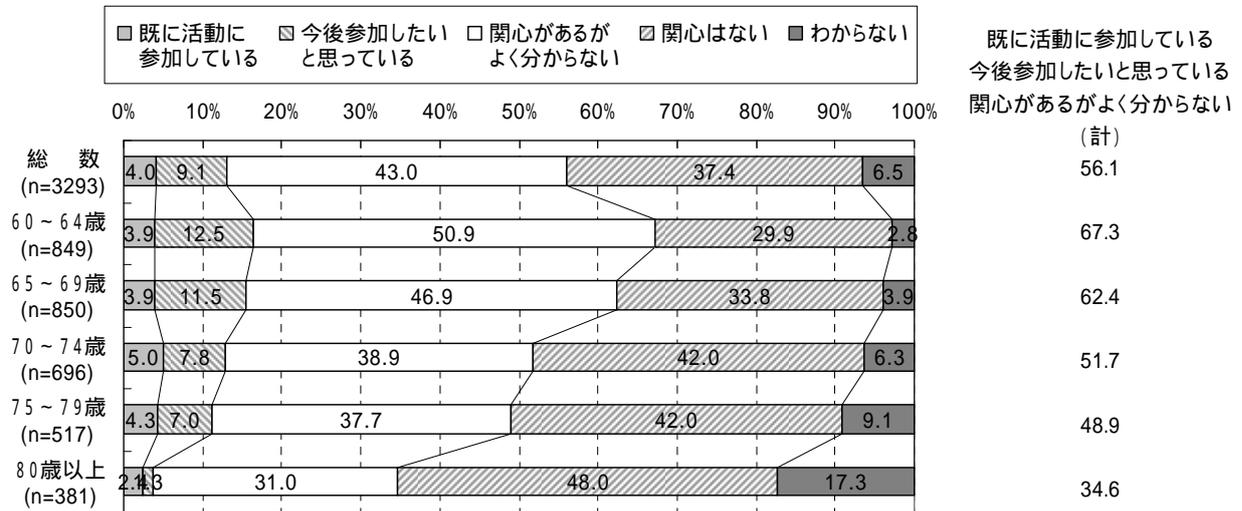
Q 2 3 「地域の福祉や環境を改善することを目的としたNPO(民間非営利活動団体)が活動しています。あなたはNPO活動にご関心がおありですか。」



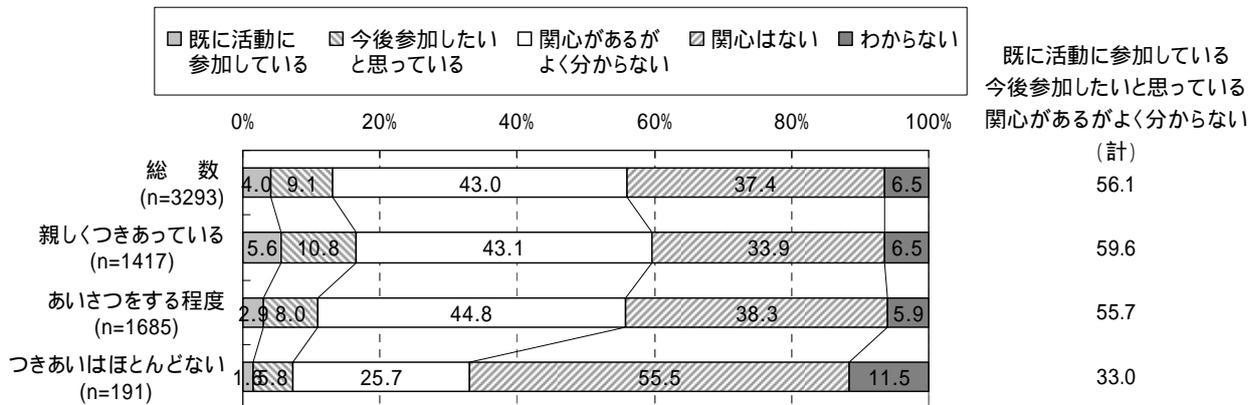
< 性別 >



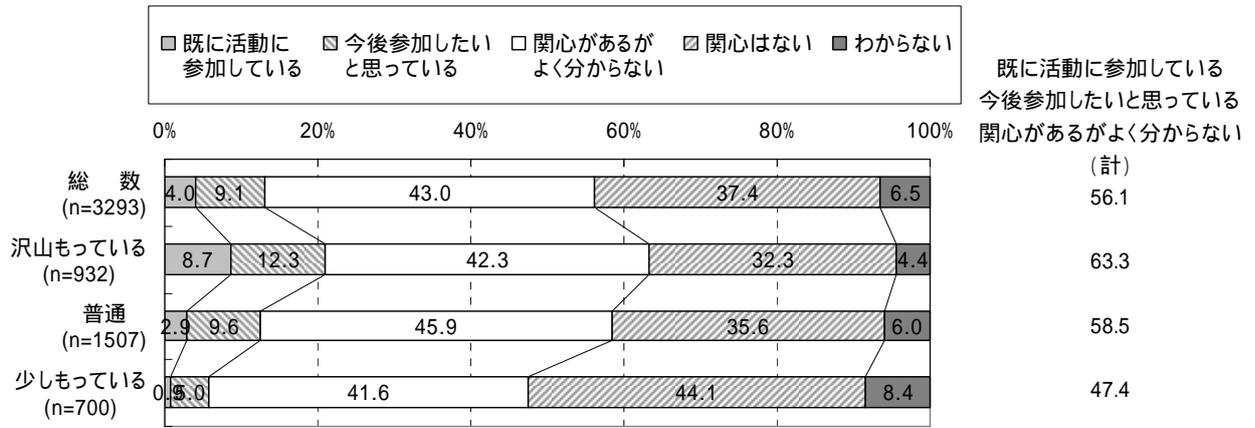
< 年齢別 >



< 近隣との付き合い方別 >



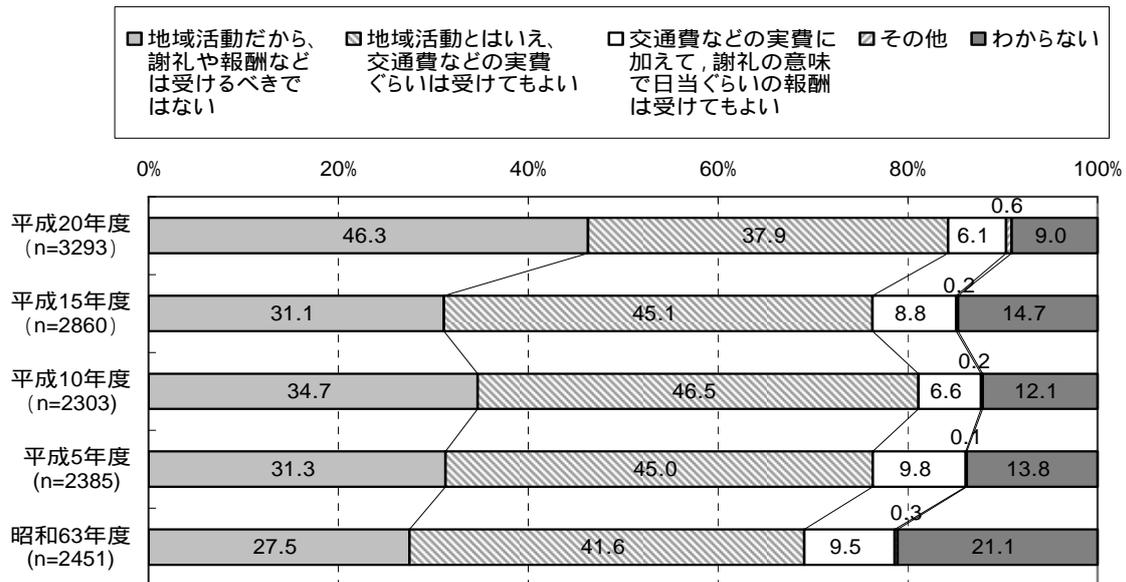
< 友人の有無別 >



4 . 地域活動についての考え方に関する事項

- ・ 地域のための活動の報酬に対する考え方について、「地域活動だから、謝礼や報酬などは受け取るべきではない」と回答した人の割合は、平成 15 年調査では 31.1%だったが、平成 20 年調査では 46.3%と増加している。

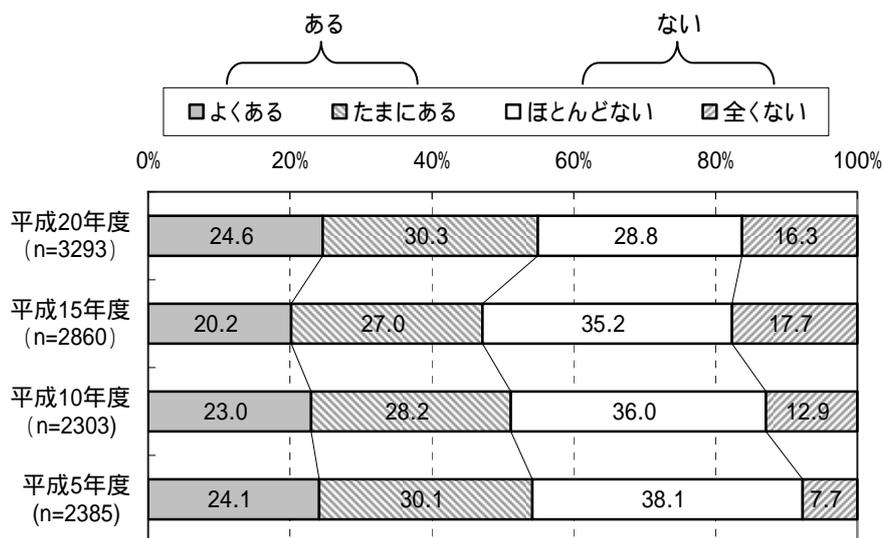
Q 2 5 「地域のための奉仕活動における報酬について、あなたはどのようにお考えですか。この中からあなたのお考えに最も近いものを1つだけあげてください。」



5. 世代間交流についての実態と意識に関する事項

- ・世代間交流の機会の有無について、前回調査の平成15年までは減少傾向であったが、今回の調査では機会が増加し、5割以上が交流機会を持っている。

Q27「あなたは、ふだんの生活で、家族以外に若い世代との交流の機会がありますか。」



- ・若い世代との交流の機会については、その参加意向が60%を超えた。

Q28「あなたは、若い世代との交流の機会があった場合、どうされますか。」

